



曖昧境界生活領域

ワンルームマンション Re- コンセプト

千葉の住宅市街地に建つ集合住宅改修計画

個人の豊かな生活空間を、既存ワンルームマンションの改修を通して、再構築する。

生活と空間をセットに考えると、生活を営むとき、必ず行為に伴ってモノが空間に表出し、その空間の性格は決定される。
生活、行為は、多様に変化・更新されており、そのものの境界はあいまいである。

生活という時間軸において、モノや行為によって緩やかな境界があり、その時々に合わせて、居場所の伸縮と更新ができることが、個人の豊かな生活であると考えられる。
また、あらゆるスパンにおいて、いろいろな環境の変化を享受し、柔軟に変容することのできる住宅を提案する。

■所在地

コルテ松波は、県庁所在地がある千葉市中央区にあり、主要駅であるJR千葉駅から徒歩7分くらいの場所に建っている。また、隣のJR西千葉駅からは徒歩6分くらいである。
千葉市の中心市街地にありながら、再開発の手はつけられておらず、第一種住宅地域でもあることから非常に静かで古くから建っている住宅も多く見受けられる地である。

■周辺環境

周辺は体育施設が完備され、春は花見、秋は紅葉が楽しめる、散策道としても人気の高い千葉公園、千葉市最大規模の千葉市中央図書館が併設されている千葉市生涯学習センターが隣接しているなど、公共施設が充実しており、大変恵まれた環境である。
また、コンビニが3店、中規模のスーパーと大手ドラッグストアが近接しており、生活面でも不自由を感じさせない環境にあるといえる。

■地域性

西千葉駅を中心として、周辺には大学が4校、高校が5校、中学、小学校も数多くあり、また生涯学習センターや市立図書館なども近接していることから、教育機関が非常に多く、学生が多い街であるといえる。
かなり多くの大学生がこの近辺に一人暮らしをしている。大学生は特に、地域密着度が強いと考えられ、彼らが、地域の公共施設、インフラ施設、さらにはこの千葉の街の経済市場を支え、活気をもたらししているといっても過言ではない。

■現状

□全体構成

■プライバシーの問題

分棟型で中央の共用階段と廊下をもって各住戸への動線を確保しており、さらに住戸がその中央に対してお互い大きな開口をもって面しているため、他住人の視線が住戸内に入ってきてしまう。
その結果、その大きな開口は年中ブラインドで閉ざされまま、開け放たれることはない。

■動線の問題

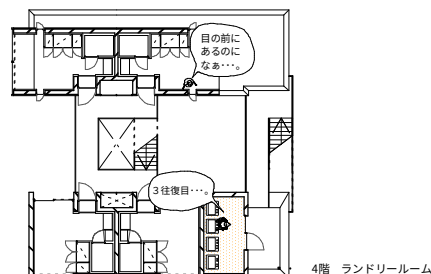
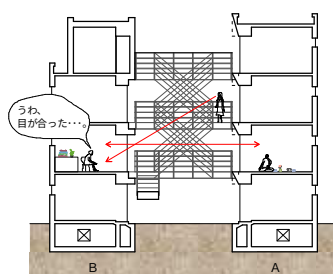
ランドリールームが4階にあり、共用階段が敷地手前と奥に2つあるが、奥の階段からしかランドリールームへの動線が確保されていない。
奥の階段を使って住戸への動線を確保しているのは、居住率が最大でも総22戸のうち4住戸だけである。例えば、4階居住者は同じレベルにありながらも、一端1階まで降りて、またランドリールームのある方の階段で4階まで上らなくてはならず、洗濯・乾燥を含めるとその距離を計3往復もしなくてはならない。

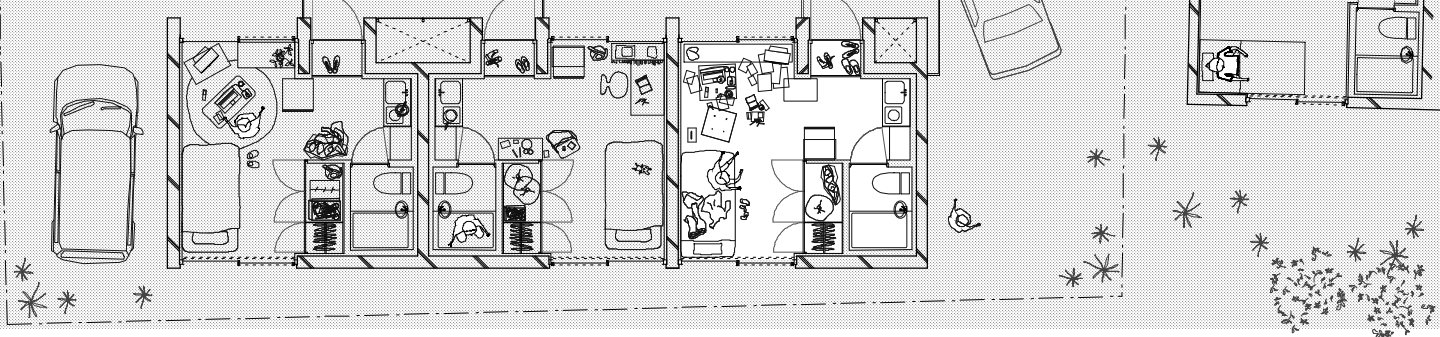
■環境（日当たり・風通し）の問題

B棟側の地下の水道管が以前、破裂したために、現在もB棟側の1階部は特にカビ臭い。B棟側に限らず、1、2階は通風があまりよくなく、日当たりもよくない。



■ コンビニ・スーパー・ドラッグストア





①生活機能の付随する空間によって縛られる



行為：入浴・トイレ・洗面
／ユニットバス



視線が入る開口部

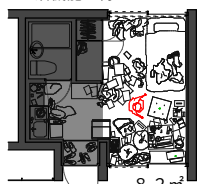


行為：料理／ミニキッチン



動線のある開口部

生活機能に縛られないが・・・



行為：睡眠・飲食・勉強・寛ぐ・・・



②開口部によって縛られる

睡眠 飲食・勉強・寛ぐ

行為に付随する空間 繋がっているが行為に付随しない空間 行為に付随しない空間

□縛られる行為の広がりや居場所

①生活機能の付随する空間によって縛られる
生活機能に縛られ固定化した空間があることで、その空間を使
っていないとき、そこは必要以上の倉庫の状態になってしまっ
ている。

②開口部によって縛られる

生活機能に縛られない行為でさえ、視線の入る開口部と動線の
通る開口部によって、行為に伴うモノを置く位置が縛られてい
る。
飲食・勉強・寛ぐといった行為は、寝る行為に伴うベッドの配
置によって、行為の広がり、居場所の伸縮は縛られてしまっ
ている。

□個人の生活空間、個室完結型

現代の単身者の個人の生活空間は、ワンルームマンシ
ョンにみられるように、都市と個室で完結している。

しかし、その多くはコスト的な面から、平均23㎡とい
う極小空間であり、さらにそこにすべての生活機能を
押し込んだため、ミニキッチン・ミニユニットバス・
ミニ収納、残りの機能に縛られない空間もミニマム
で使い勝手が悪い状態となってしまっている。
また、すべてがミニマムであるうえ、固定された空間
にある生活機能・収納・開口部によって、行為の広が
りとその居場所は限定されてしまっている。
果たして、これが個人の豊かな生活空間であるのか。



内部化され
個人の生活が
染み出る
共用空間

■個人の豊かな生活空間

居場所の伸縮と更新ができる空間

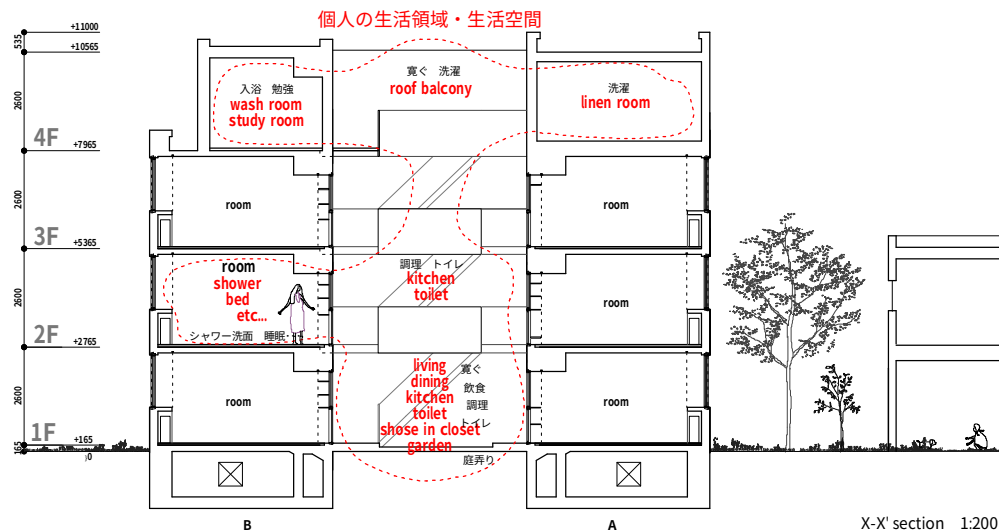
個人の豊かな生活空間とは、生活という時間軸におい
て、モノや行為によって緩やかな境界があり、その時
々に合わせて、居場所の伸縮と更新ができる住宅だと
考える。
それは、個人が個々に感じるプライバシー・個人の生
活領域（テリトリー）を保ちながら、生活行為が広が
る生活空間を十分に確保することによって、実現でき
るのではないか。

□操作1：生活領域を保つ、人数・場所・広さ

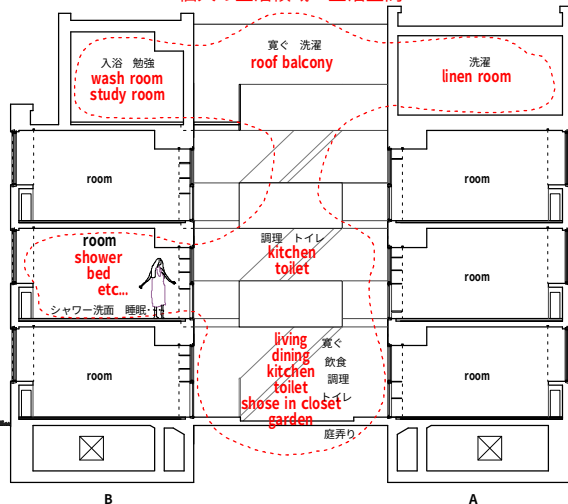
それぞれの生活空間ごとに、共用する人数・その空間
の場所と広さを考慮し、生活領域を確保し、生活空間
を組み替え直すことで、個人の豊かな生活空間を再構
築する。

■構成

住戸同士が対面するこの住宅の普遍的な環境、中庭と
いう共用空間を単なる街路の延長ではなく、個人の生
活空間の場を拡張できる空間として再構成する。



個人の生活領域・生活空間



X-X' section 1:200

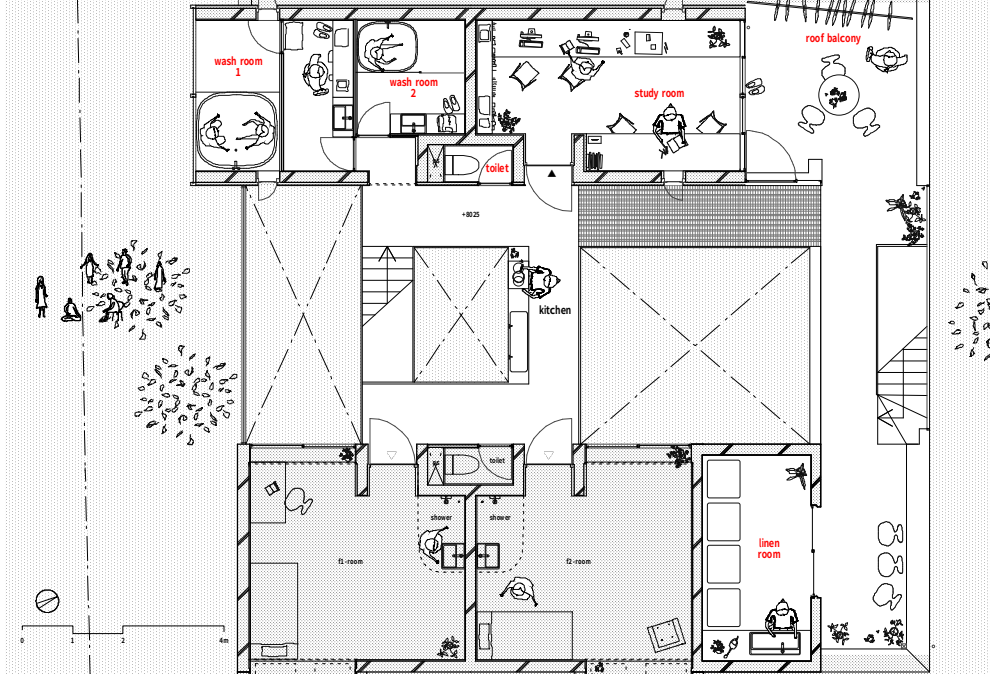


生活はこのような生活行為の連なりであるが、生活行為の種類によって、空間におけるその行為の広がり様々である。

- ① living
- ② dining
- ③ kitchen
- ④ toilet
- ⑤ garden
- ⑥ shoes in closet



2人



◇共用生活空間／4F

20人全員

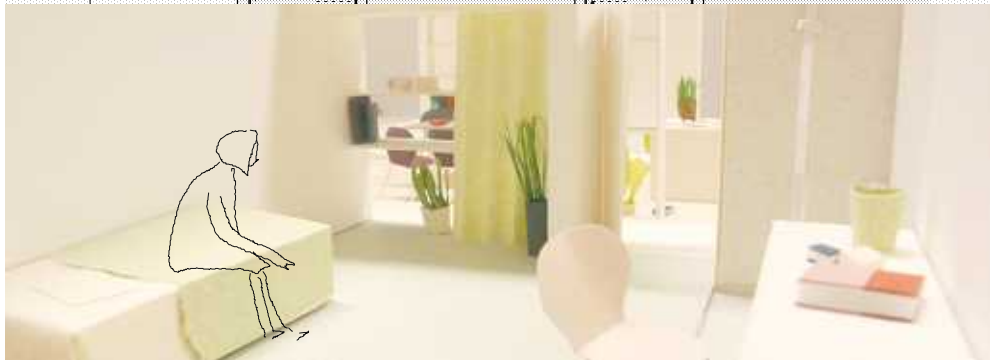
⑨linen room

⑩wash room

⑪study room

⑫roof balcony

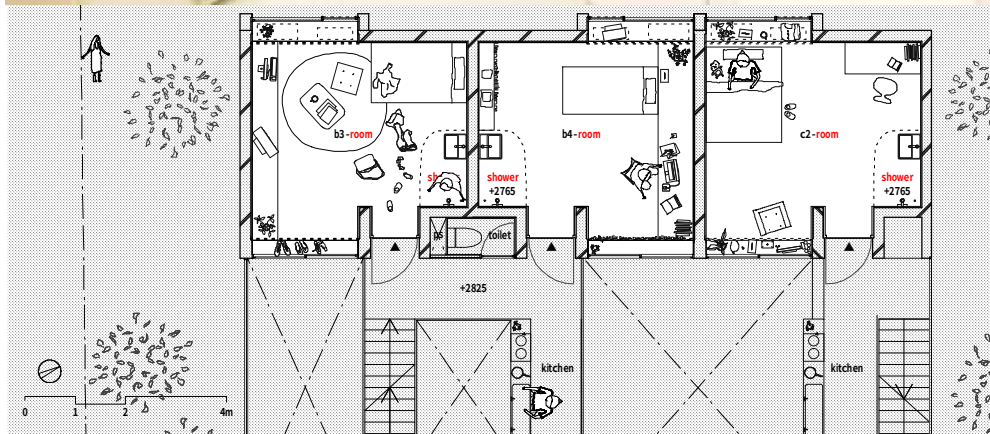
⑬toilet



個室に完備する生活機能は、シャワーと洗面だけである。

シャワーを浴びるときの一連の動作として服を脱いだり、着たりといった行為が必ず伴う。ユニットバスの場合でも同様であるが、その着替える行為は部屋の中に拡張しているといえる。

また、このシャワーと洗面の機能を固定空間化してしまわないことで、生活機能に縛られず、生活行為と居場所を伸縮・更新することができる。



◇個室生活空間／1～4F

1人

①shower



生活が多様に変化・更新するように、モノや行為によって個人の生活空間には緩やかな境界があり、またその生活境界は曖昧である。

□操作2：境界を領域化する、棚とカーテン

個室空間と共用空間の境界を棚という面で領域化し、そこにあらゆる行為に伴う様々な性格を帯びたモノを所有することで、その性格は時々に合わせて変化し、個人の生活空間の境界は曖昧となる。

プライベートな行為に伴い、視線を排除するカーテンを窓際ではなく、棚の室内側に設置することで、モノを使うときにカーテンをひくという行為がおのずと伴う。すると、個室以内の行為の性格に関わらず、年柄年中閉ざされた壁のような状態ではなく、個室空間と共用空間の境界は溶けて飽和してゆく。

また、モノの表出は個の表出であり、自己表現であり、住人同士のコミュニケーションを図るキッカケとなる。

